



歌劇

天空の町

完成記念 東京プレゼン公演

別子銅山と伊庭貞剛

台本・作曲・総監督／石多エドワード

●とき 2012年
7月14日(土)18:30開演
(18:00開場 21:30終演)

●ところ
国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟 小ホール

●入場料 (当日券無し)
自由席 4000円 指定席 5000円

●指揮 西谷亮 ●振付 美二三枝子

■伊庭貞剛：石多エドワード ■広瀬幸平：蔵田雅之 ■旅人：大地 ■梅子：石多加代子 ■田鶴子：田村多佳子
■森の精：秦美智世 ■松：吉井美幸 ■塩野門之助：後田翔平 ■品川彌二郎：西田直人 ■住友友純：結城孝一
■峯山和尚：福島羊一 ■小川治兵衛：寺嶋繁久 ■切り上がり長兵衛：越智大之 ■鋳夫：岡正広
■敵君：芹沢昭二 ■日向重衛門：大條雅久 ■峯山：福島羊一 ■役員：早川亘
■おんなたち：今村喜美、大島佳子、近藤由喜子、谷野有紀、灘ゆかり、平山ゆかり、藤田亜矢子、湊真帆、
山内葉子、山下ルリ子
■花と動物と子ども：大島阿子、大島彩華、香月茉莉、佐々木利奈、谷野しずか、谷野のどか、谷野ひかり、出口光規、
出口友行、仲濱美海、西田賀奏子、藤田百々笑、星川雛、守谷幸称

東京オペラ協会管弦楽団

和楽器(尺八：星川千代洋、箏：渡辺治子、三味線：杵家七三、篠笛：竹井誠)

東京オペラ協会合唱団

児童合唱：エドワードキッズ東京

日本舞踊：花柳和代衛、二見ユキ子

新居浜市 旧別子 蘭塔場
撮影：田尾忠士

●スタッフ
映像美術：michi 照明：長澤宏明 舞台監督：廣田修
ヘアメイク：佐藤ていこ

【主催】NPO法人東京オペラ協会 【共催】歌劇「伊庭貞剛」実行委員会
【協力】オペラブラザ愛媛、オペラブラザ福岡、オペラブラザ長崎
【後援】新居浜市、新居浜市教育委員会、西条市教育委員会
【協賛】帝人株式会社、株式会社サンコロナ

【お問い合わせ先】NPO法人東京オペラ協会
tel:03-5269-7895・070-5810-1976 fax:03-5269-7893
e-mail:office405@tokyo-opera.gr.jp
http://www.tokyo-opera.gr.jp

歌劇「伊庭貞剛」実行委員会
http://user.shikoku.ne.jp/kaohashi/opera.html

歌劇 天空の町

～別子銅山と伊庭貞剛～

あらすじ

プロローグ 優しい大自然(現代)

春夏秋冬が静かに移り変わってゆく別子山。そしてそこに咲く花々。木霊のように流れているお経をそっとロズさんでいるようだ。お経は、美しい女声合唱に発展し、花はだんだん女性の姿となる。そこに旅人が一人やって来て、花たちと別子山の歴史を振り返る。またここに植えられ見事に育った檜、杉、唐松、白樺などは男性に、ここに遊ぶ虫や鳥などの動物たちは子供となって、自然に還った別子山の生き物すべてが、歌い踊る壮大な混声合唱に発展し、活気付いた往時の別子山が蘇ってくる。

■第一幕・・・青春 弘化4年～明治27年(1847年～1894年)

第一場 栄える別子山

別子山の祭り歌が生活観いっばいに踊り歌われる。歌い踊り終わると女たちが、現代の女の視点からわかりやすく庶民的に、日本のいい男、いい女ってどんな人？と問いかけながら物語は進む。別子山の昔からの生活の様子、切り上がり長兵衛による銅山の発見、広瀬幸平の指導力による繁栄、それらが次々と展開する。

第二場 伊庭貞剛

伊庭の少年時代がまずパントマイムで表現され、続いて結婚し、いよいよ世に出て行くまでが描かれる。

第三場 正義を求め

天下・国家を考えてきた正義感溢れる伊庭にとって、墮落した藩閥政治の官界は自分が住むべき世界でないと考え、故郷に帰り家族との束の間の団らんを楽しむ。

第四場 果てなき旅

そして別子山に向かうまでの様々な事件や周りの人々との葛藤、それらに女たちがコメントしながら、物語はオペラ的にドラマティックに歌い上げられてゆく。最後に伊庭は、広瀬との対話の中で、遂に別子銅山に単身向かうことを決意する。

エピローグ 大自然の歌

女たちは再び花に、人々は往時の樹木に、子供たちは動物にそれぞれ戻ると、別子山がもう一度静かに大きく浮かび上がり、自然こそが神だ、と微笑みながら旅人が説く。そして、我欲に振り回される今の人間世界を、超然と笑い飛ばし、大自然に還ろう、と語る旅人とともに、花たち、生き返ったみどりの樹木、動物たち、それらすべてが別子山に生きた元気な命としてもう一度甦り、大自然に抱かれることの幸せを最後に歌いあげる。

■第二幕・・・晩晴 明治27年～大正15年(1894年～1926年)

第一場 別子山の嘆き

火中の栗を拾うが如く、荒れ果てた別子山に來た伊庭貞剛。同じく荒れ果てた人心に彼がどう対処していったか、を描いてゆく。自然が徹底的に破壊され、悲しみと絶望にくれる別子山の嘆きの声を深く抱きとめる伊庭。過酷な労働に苛立つ鋳夫たちとの危険な折衝に、伊庭は誠実に粘り強く向き合い、解決に導く伊庭。そして、せつとう節に続き別子音頭が流れ、感慨深げに見守る伊庭の姿。これこそ日本の男、とささやく女たち。

第二場 晩晴

労使紛争の解決、煙害の克服、別子山の緑化、など全てを熟慮、祈念、放下、断行し、ついに解決に導いたことを、帰阪して誇らしげに報告する伊庭に、峯山和尚の「世の中まじめに観てな。」の一声。その時、四阪島からの煙害が再び始まったことを報告され、改めて人間の限界を知った伊庭は、自分の成し遂げたことは、大自然からの恩恵はもちろん、別子銅山で働いた多くの鋳夫やその家族、あるいは事務的なことを黙々とひたすら支えてくれた部下たちがあって初めて出来たことなのだ、と改めて気づく。別子山を緑に戻せたことを謙虚に感謝する伊庭に「晩晴」を見出し、日本人の本来の心、清貧、陰徳、謙虚、素朴、無為自然、自然賛美、などにこそ世界へのメッセージがあることが、死を前にした伊庭の言葉で静かに描かれる。

伊庭貞剛の人物像

環境対策の先駆者
新居浜の自然の恩人

明治26年(1893)、硫黄分を多く含む銅鉱石の製錬で生じるガスが原因で、別子の山々や新居浜近郊の田畑・山野が枯れるという大きな煙害が発生していました。加えて農民や労使の紛争という、内憂外患の別子銅山に存亡の危機が迫っていました。明治27年、48歳の伊庭貞剛は、母の弟で叔父の別子銅山支配人、広瀬幸平の要請で、問題解決のため支配人として単身で着任します。別子全山、木のない荒れ果てた姿に大変心を痛め、「天地の道理に反する」として、ただちに山林復旧の壮大な植林事業、すなわち毎年100万本、多い年は200万本を超えるという植林に着手しました。

別子全山を旧のあおおとした姿にして 之を自然にもどさなければならぬ

殺気立った暴動や争議を取めるに当たり、かごに乗らずよく歩き、ある時は新居浜にくんだり、探鉱夫や製錬夫の声によく耳を傾けました。こうして対話・会話で紛争を1年で収める一方、着任早々に新居浜製鉄所の閉鎖、「えんとつ山」の山根製錬所の閉鎖、山林課の再設置(住友林業株式会社の前身)や、煙害対策を根本的に解決すべしと、四阪島への製錬所の統合移転を推し進めたのでした。

五ヶ年の跡見返れば雪の山(伊庭貞剛) 月と花とは人に譲りて(返句:品川弥二郎)

大正15年(1926)没。享年80歳。近江人幡市の伊庭家墓所に眠る。禅修行の道にも通じた「徳」の人でした。

一部、末岡照啓氏(広瀬歴史記念館名誉館長)著「伊庭貞剛小伝」引用

石多エドワード略歴

1947年 (昭和22)9月21日、大阪市に生まれる。父はフィリピンで出生した日本人、母はスペイン系フィリピン人
1965年 大阪府立高津高等学校卒業。在学中、体育部長、自治会会長
ベートーベンの後期交響曲に魅せられ作曲を目指す。
1970年 武蔵野音楽大学声楽科卒業。在学中、作曲を平塚三郎他に師事。ドイツ歌曲の世界に入り込み300曲ものレパートリーを持っているが、更新の社会性を求め、オペラ界で活動始める。「東京オペラ協会」の前身となる「グループ演劇」第1回公演開催。
以降、現在まで東京オペラ協会代表・芸術監督として創作活動のかたわら、自己のソロリサイトを全国で40回開催。またモーツァルトを中心としたオペラの数々の主役を務める。
1979年～1999年 帝京大学にて、非常勤講師として「現代芸術論」「音楽」「教育実技」等を教える。
東京オペラ協会の縁組団体として生まれた、オペラブラザ長崎、オペラブラザ福岡、オペラブラザ愛媛、オペラブラザ岡山、オペラブラザ沼津の芸術監督も務める。「国際交流はオペラで！」と考え、日本から世界に向けて発信するオペラを創作・世界各国で公演。



■NPO法人東京オペラ協会について

1. オペラによる国際交流
・オペラ「忘れられた少年」は、ポルトガル、スペイン、イタリア、パチカン、ドイツなどで30回以上に上演を重ね、各国のソリスト、オーケストラ、合唱団と共演。日本でも100回以上、合計130回以上に及び世界各地で公演。
・日中合作歌劇「蓬萊園一輪皇帝と徐福」(呂遠作曲、遊仙三郎台本、石多エドワード補作)を中国歌劇舞劇院との共演により日中合作で34回公演。
・日比合作オペラ「高山近衛一輪が愛か」(マヌエル・マランバ作曲、加賀乙彦原作、永遠藤二郎台本、石多エドワード補作)を日比各地で17回公演。
・日西合作オペラ「ザビエル」(イニゴ・カサリ作曲、加賀乙彦と石多エドワードの共作台本)を東京長崎で公演。
2. ユニバーサルデザインオペラ
オペラの内容が現代に即したもので、一般のお客様に喜んでいただけるよう歌唱力と演技力を高めて明快な日本語で歌い、出来るだけ安い料金で観ていただけるよう創意工夫を重ね、障がい者も楽しめる人が一緒に舞台に参加でき、また観覧もしていただけるよう、当会30年余りの歴史の中でその指導法を確立してまいりました。人間の創造力と想像力をフルに使って私たちのオペラを創って行きます。

■東京オペラ協会 http://www.tokyo-opera.gr.jp
東京事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-14-6-405
Tel:03-5269-7895 Fax:03-5269-7893 e-mail:office405@tokyo-opera.gr.jp
九州本部 〒859-3712 長崎県東彼杵郡波佐見町中尾 660
Tel:0956-85-2027 Fax:0956-85-6267 e-mail:nagasaki@tokyo-opera.gr.jp

■オペラブラザグループ
オペラブラザ長崎 090-4380-2339・オペラブラザ福岡 090-5294-7931
オペラブラザ愛媛 080-3164-1148・オペラブラザ岡山 090-6556-1976